

PAPERS OF PVM

26

$\frac{1}{2}$

R.P. 58
5
59

自昭和二年三月
至同年九月
南京ニ於ケル支那兵
暴行及掠奪事件

1-35 = R.P. 58

1—197

松本記録

昭和二十五年
遺族より提供

南東之新入会者等
（署名）
此後在子等外務関係

松本記録

昭和二十五年十月
遺族より提供

昭和二年三月二十四日南京事件南軍ノ暴行状況

一 下関

昭和二年三月二十四日午前七時南軍ノ先頭

十七師長楊杰ノ部下ハ上流地区ヨリ下関ニ進

入シ進走スル山東軍ヲ急追スルト共ニ下関ニ

在泊ノ外國艦船ニ対シ無秩序ナル乱射ヲ行

ハル

午前七時五十五分江岸ノ山東軍ハ全ク掃蕩セラ

レ、レカ勝ヲ誇レル南軍ハ一転シテ旗幟明瞭

ナル各國萬足船ヲ猛射シ日清萬足船ニ命中セル

REPRODUCED

日中死

彈數ハ約八十ニ及リ午前八時十分後藤一等機
関兵ハ蘆船内税関吏室ニアリ于此一猛射ノ中ニ
殉職ス

茲ニ於予蘆船守備ノ指揮官ハ在留邦人ヲ蘆
船外側ニ繋留セル短艇内ニ避難セシメタリ
此ノ間暴兵等ハ我制止ヲ肯セス避難邦人ノ年荷
物等ヲ破壊掠奪セリ

午前九時二十分駆逐艦桃出動シ蘆船側方ニ牽接シ全
員ヲ收容ス當時下関各國蘆船亦同様奪掠ヲ蒙
リ且ツ英米避難民ハ「スタンダード」ニ於テ迫害ヲ

受ケツツアリシカ之ハ方救護ノ爲午後三時四十分英米
軍艦ハ遂ニ城内砲撃ヲ開始セリ砲撃ハ約一時間ニ
及ヒ発射彈數二百ニ達ス

吉田司令ハ城内邦人ノ情況尚不明ニシテ城内砲撃
ハ其ノ虐殺ヲ誘致スルハキ虞アリトナシ此ニ参加
セサリキ

二、南京

(一) 一般

(1) 二十三日夕刻北軍ハ全ク領事館前ヲ退却シ
了リ翌二十四日午前五時半頃南軍ノ先頭現

ハレシカ其ノ後約一時間半ニシテ南軍暴兵ノ侵入
ヲ見タリ。

(四) 下関トノ電話連絡ハ二十四日午前六時四十分ノ通
話ヲ以テ最終トナルモ南軍侵入時尙通話可能

ナリシカ暴兵ハ侵入ト共ニ之ヲ破壊切断セリ。

(三) 初メ領了ハ南軍ノ入市ナルヲ見テ十中八九迄

危険ヲ脱セルモノトナシ此際ハ敵ノ水兵ヲ以テ

敵ノ支那兵ニ對抗スルハ絶テ不可能ナ

シハ寧ロ己ノ党軍及民衆ノ敵愾心ヲ挑発ス

ル爲早キニ及ニテ防備ヲ撤去スル方有利ナリ

トナシ、之ヲ指揮官ニ要求シタリ指揮官ハ之ヲ容
テ機銃射坐ヲ撤シ警戒隊ノ武装ヲ解キ之
ヲ一格格納セシム。

(二) 午前七時頃南軍、一隊約五十名来館シテ山東軍

ノ有無ヲ尋ネ、銃ヲ靜ニ引揚ケタリ之ニ依リ一同

全ク無安心ニテ茲ニ館内ヲ開放スルニ至レリ

然ルニ計ヲサリテ暫時ニシテ約五十名ノ南軍

正規兵ハ我制止ヲ聞カス舊進シ来リテ忽チ

発砲掠奪、暴虐ノ限リヲ尽セリ。

(三) 指揮官ハ既ニ領テ其ノ他ノ意見ヲ容レテニ對シ

(二)

掠奪暴行、状況

陳ノ最後ノ配備ヲ定メ居タリ、

ト共ニ砲力ヲ用ヒ居ンテ邦人ノ守護ニ任スヘシ

萬難ヲ排シテ急ヲ驅逐隊司令ニ報セラル

暴虐ニテ一衣履殺ノ聲ニ出ツルニ至ラハ一方

以テ武力手段ヲ避クルニ決心セルモ差シ銀等ト

譲シタル所知大尉ニ一同ノ要求ヲ諒トシ聽忍

右ハ已ムヲ得サル要求ナリトシテ荒木大尉ニ協

用ヲ避ケラレ交ハ懇請シタルニ付森岡大尉

居留民一同ハ飽ク迄警戒隊員ニ對シ武力ノ使

(1) 暴兵團一時館内ニ下士官一名兵四名ナリシカ暴
兵ハ其ノ制止ヲ用カスニテ物ヲモ言ハス突入ニ事
リ銃剣ヲ以テ一兵ヲ刺突シ其ノ外套ヲ傷ケ
次ニ発砲致シ其ノ所持品ヲ強奪セリ。
下士官ハ高聲ニ支那語ヲ解スル者ヲ現場ヲ
求メテ事務所ニ駆込ミシカ高聲ニ応シテ出
テ来リシ書記生亦立所ニ殴打強奪セラル
タリ、續クテ木村署長直ニ現場ニ駆ケツケ
シカ之亦暴兵ノ辱撃セラルテ傷ヲ其ノ所
持品ヲ強奪セラルタリ。

斯ノ暴兵ハ登砲シツ、二分ノ事務所及官邸
 ヲ襲ヒ茲ニ全般ノ掠奪暴行ヲ開始シ爾來自
 動車、馬車、人力車等ノ運搬具ヲ用意シテ
 尚續々侵入シ來レル多數ノ暴兵一百五十乃至
 二百名ハ構内隈ナク横行シ堂々青天白日旗
 ヲ携ヘテ口々ニ「日美帝國主義打破」華俄
 一家「日中」ノ財產ハ支那人ヨリ悉ク上ケタ
 ルモノナレハ奪回ス、シ「日美兩國ハ近年東上
 海ニテ支那人ヲ虐待シタリ」等ヲ叫ビテ登砲
 脅迫掠奪苛酷暴行限ヲ尽セリ

(12) 此間多^ク支那市民(女子供ヲ含ム)に暴兵ニ
シテ侵入シ来リ手當リ次第ニ鎗由^リ器物ヲ持
テ去レリ

(13) 損害

領事ハ病臥中ナリシ方、寢衣夜具迄剥奪取
ラレニ^テ屍ノ粗聲ヲ受ケタル等三時間ニ亘リテ尚
斷ナク生命ノ迫害ヲ蒙レリ

根中陸軍少佐及和田巡查部長ハ初メテ務
所ニアリシカ金庫、鍵ヲ強要サレテ銃尾ヲ以テ
腰部ヲ強打セラル、根本少佐ハ更ニ官邸ニ於

予銃剣ニテ脅迫サレ遂ニ左腹部及臀部ヲ刺ル
木村署長ハ凶銃ニテ狙撃セラレテ右腕前膊部
ニ貫通傷ヲ受ケタリ

一般ニ所持品ハ固ヨリ着衣帽子ニ至ル迄制奪セ

ラセ子供ニ對シテハ強ニト暴行ヲ行ハス僅ニ靴ヲ

奪ハレタルモノアリ銃由ノ武器、諸器具、糧食

ハ固ヨリ床板、畳ノ縁、便器ノ末ニ至ル迄掠奪

セラレ最後ニ遺棄セラレタルモノハ大金庫、ピア

ノ自動銃車及無電用モーターノ自動車等

リナリ

掠奪せられたる武庫左ノ如シ

在領ヲ銀武庫 小銃三十 彈藥約三萬發

海軍兵器 機銃一、同彈藥若干無紙電信機一基

(二) 最モ執拗ナル迫害ハ容易ニ捕ク能ハサリシ二個

ノ金庫ヲ中心トシテ繰返シ繰返シ最モ迄行ハレタリ

一ハ仰真影其ノ他一機密書類及銀三ヶ弗ヲ格

納セシ大金庫ニシテ事務所ニテリ銀三ヶハ極

庭ニ集合後其ノ鍵ヲ受取リテ炊事場煙突ニ

投棄セリ其ノ後ト雖モ其兵ハ屢々一人一人ヲ

銃剣ヲ以テ追立テテ金庫室ニ連レ行キ之ヲ捕

放ヲ迫リテ止マサリキ

領事ノ病室ニアリテ數回ニ亘リテ藥砲脅威ノ因

トナリシモノハ他ノ小金庫一數百圓帛在中ニシテ

小隊長並黨代表ヲシキモノ自ラ兵數名ト共

ニ領テ其ノ他ヲ迫害セシモ流石ニ小隊長ハ領

事ノ生命ヲ底護スル態ニテ採レリ金庫ハ最

後ニ何者カヲ持テ去ラレタリ

(木) 午前十一時頃ニ至リ暴兵ハツガソリニテヲ搬出シ官

邸ヲ燒却セン等揚言セリ

(イ) 邦人全部ヲ後庭ニ集合シタル後ト雖モ暴兵

ハ屢々来リテ最後ノ一物ヲモ餘ス所ナク掠奪セリ

(1) 城内各邦人家屋ハ引續キ破壊掠奪ヲ蒙レリ、

(三) 結末

(1) 邦人ハ領下官邸裏内、前後ニ集合シ板坂日

本人会長ハ暴兵ノ官邸焼却ノ揚言モアリ、官邸ト

先死ヲ共ニスト称シテ勅力サリシ領下ヲ说得シ

テ強ク右ノ避難往來ニ連行シ茲ニ領下モ本邦

人一同生死ヲ共ニスレトナシ全員ヲ集合セシメ

(10) 居留民、此際分離脱出ヲ希望スル者アリシモ

領下ハ城内、安全ヲ確認セザル限り各人ノ分離

行動ヲ詳サストテ之ヲ行ケ尚連絡兵トシテ兵員
ヲ下用ニ送ラントノ議アリ兵員中ニモ否之ヲ否
望スルモノアリシモ言語不通ノ兵員ヲ以テ連絡ヲ
計ラントスルハ無益ニ之ヲ死地ニ送ルモノナリトスル
知リテ意見ニ基キ之ヲ取止ム

(ハ) 午前十時半頃偶々第二軍中ニ師党代表兼政治部
主任蕭勁東リテ暴兵ヲ殴打制止シ之ヲ追ヒ拂
ヒタル後領テニ面会シテ切リニ遺憾ノ意ヲ述ベ暴
兵ハ第二軍及中六軍中ニ不良分子ノ所屬ナリト
ト辨明シ以後嚴重警戒スヘト声明シ何ナリト

毛不自由ノモノアリ、申出ラシムルヲ求メタリ、不取
敢糧食及消毒品ヲ必要トスル旨要求セリ

次、中、師長、戴代ヲ伴ヒ、来ル同師長、同、夕
遺囑ノ意ヲ述、タルモ、態、不遜ナリ、兎モ角モ

当方ノ要求ヨリ、左記邦人保護ノ告示文、知
板、鉛筆、書シテ、残シ行ケリ。

銃ヲ彼等、五名ノ、警戒兵ヲ配備シテ、緘止シ

収刻消毒品ヲ送り、来リタルモ、食糧、以、遂ニ之

ヲ送ラズ

外僑住所、不進入、如有侵犯、立予槍殺

師長印(戴就)

党代表印(蕭勁)

(四) 掠奪後、領了餉、松況

茲之漸々避難邦人の生命、迫害ヲ覓ヒタルモ

隣接スル金陵大學、尚續々掠奪ヲ蒙リツツ

リ予危機尚全ク去ラズ午後一時半市街ニアリ

シ最恰ノ邦人二名到着シ一同ハ先ツ領了官

邸ヨリ一室ニ集合シ使用支那人ニ依リ買上整ハ

タル支那饅頭及茶ヲ以テ僅ニ饑渴ヲ医シタリ

然ルニ午後三時四十分ニ至リ下関ニ當リ予般及

先砲撃起リ同方面ノ南軍續々城內ニ退却シ
來ル航子外國陸戰隊來援ス、ト一説アリ、
未タ其影ヲモ見サルニ早クモ南軍再ヒ下南方面
ニ進出アリ始メタルヲ以テ若シ帝國駆逐艦ニレテ
該砲撃ニ参加シタリトモ、領ヲ鎔内邦人ハ
毫殺ヲ免レカン、ト感シ一同再ヒ異常ノ恐
怖ニ襲ハル。

茲ニ指揮官ハ南軍再入ノ侵入ニ對シテハ死
力ヲ尽シテ抵抗セサルヘカラスト決心シ諸般ノ
配備ヲ定メ、當夜兵員ハ徹宵文化シテ警戒

ヲ嚴ニセリ斯ク如キ不安裡ニ二十五日午前十時半
吉田司令一行ハ来着セリ避難邦人ハ往來シテ
之ヲ迎ヘ領事ハ荒木大尉ノ行動ヲ感謝シ且
吉田司令力自ラ決死隊ヲ組織シテ城内ニ乘
込ニ居留民ヲシテ九死ニ一生ヲ得ルノ思ヒアラ
シメタル勇敢ナル行動ト熱烈ナル同情トニ對
シ特ニ居留民一同ヲ代表シテ中満腔ノ谢意
ヲ表スル所アリタリ

(参考)

各國被害情況

(1) 日本

(1) 日清「ハルク」

後藤一機兵即死、「ハルク」命中彈約八十、大部

分ノ荷物及邦人ノ財産掠奪セラル

(四) 領事館

負傷者二名(根本陸軍少佐、木村警察署長)

館内徹底的ニ掠奪セラル邦人ノ所持持品ハ勿論

不類迄剥奪セラル

(2) 英國

(1) 領事館

死者二名、傷者三名、總領事官重傷

館内全ク掠奪、總領事官外^六名ハ三十一時由^二直

リ監禁セラル

(12) 美孚社宅附近

集合中ノ英米人掠奪或ハ銃撃ニ遭ヒ米兵一員

傷ス此処ノ避難民ハ英米軍艦、砲撃ニヨリ牧

畜セラル

(11) 其他ノ会社私有家屋

怡和洋行に船入、射撃ヲ受ケ傷者一名、完全

ニ捕奪セラル

大沽口ハルクニ至リ守備ノ水兵絶肉トク銃声
響キ受ケテ遂ニ撤退、次テハルク内一物ヲ踐

サニ捕奪セラル

市内私有家屋全部掠奪、城内ニ捕ハラレタ

英人ハ掠奪侮辱ヲ逞テセラル

(一) 英艦「エメラルド」

水兵一名銃弾ニ當リ即死、彈痕約七十

(3) 米國

(1) 飯下館及名私宅米人経営學校、会社、事務所
并悉く掠奪せうに放火せうとタル米人所有建物
約一〇棟ニ及ハシ

(2) 美孚社宅附近ニ関シテ (1) (2) 項 (10)ノ通り

(17) 死者一(金陵大学教頭) 負傷者二一名は兵

備考 金陵大学ニ正集合セシ米人約百五十名

ハ五月二十五日夕刻赤十字及紅十字会ノ援助

ニヨリ無事引揚ケタリ

(4) 其他

佛人ノ殺害セウレタル者一名

伊人ノ殺害セラルタル者一名

總テ、外國人ノ擄奪迫害ヲ受ケタリ

上海
本省

五月二十五日 收稿

幣原外務大臣

矢田總領事

第三二〇号

在南京第二十四驱逐隊司令ヨリ 二十五日午前十一
時四十分(電) 当地海軍司令官宛 十二時二十五分
着在ノ通

城内銃下鎗在留民一物ヲ毛残カス 掠奪サレ生
命ニ異狀無シ 輕傷者二名 即眞影 電報暗号等
大丈夫

上海
本署

五月二十五日 佐藤

幣原外務大臣

矢田總領事

升三三三

往電升三三三之号ニ関シ

二十四日午前白崇禧本官ヲ来訪シタルニ付南京ヲ

襲ヲ略述シ日本領ヲ鉅友之ニ收容シタル在留民ノ

運明ホ命不明、此際事態ノ如何ニ依リテハ重大

ナル國際問題ヲ惹起スル虞アリ本官ハ深甚ナル

憂慮ヲ抱キ、南京ヨリノ消息ヲ俟テ、

次ヲナリト述、本官ノ切望スル點ハ右事件ノ当地

RECEIVED

二波反セサルコト且ニナリ貴下カ金力ヲ擧テ擧テ
当面ノ秩序維持ニ當ルコト國民政府將來ノ存亡ニ必
要ナルレト警告シタルニ白心配ラレテ顔色ヲ示シ
テ多クテ豫ラス上海ノ治安維持ハ必ス為スベキ旨ヲ
約シテ引取りタリ
猶當日ハ解除兵問題ニ關スル要オアルヲ豫期シ
荒城司令官モ同時ニ会見スル筈ナリシモ急ニ之ヲ
見合ハセリ本官ノ態度友ノ如クナリシ為カ今朝迄
使者ヲ立テ五月蠅ク本官ニ迫リタム山東兵引渡問題
モ口ニセスレテ引取りタリ

本燕湖

三月廿五日
廿九日
後
看

幣局外務大臣

藤村領了代理

才七一号

蒋介石、昨夜九时代表了当館、派之南京事件

一善後問題、轉自了全責任了負了二付英國米國

兩國當局、対に砲撃中止了傳達、突にト、申出

了り右上海總領事並海軍側、傳、墨子名処

本二十四日交渉真代理、素議、依、以、蒋介石、昨

夜十時、至り当地、之南京領了館、負了、ト、聞、中、交

渉、負代理了派、之、市、官、之、申出、タル、ト、全様、了、了、了

同人ニ申込ニ其承諾ヲ得たんニ安心シ且爾自南京
ニ赴クコト事件ノ解決ニ便ナリトシ突然今朝当地
發南京ニ向ヘリト

南京
本署

(海軍無線電)

三月二十六日 收着

急
幣原外務大臣

木村閣下

昨二十四日 前七時頃より十一時半迄 皇軍第二軍

司令部所屬支那兵約一五〇名 驢馬車等、運搬具

ヲ用意シ 未タリ入替リ立替リ制服制帽ニテハ

銃ヲ携ハ 当銃ニ乱入シテ直ニ武力掠奪ニ終リ

一隊ハ事務所及銃負官舎ヲ一隊ハ銃ヲ官邸ヲ

襲ヒ 本官以下銃負家族上陸中ノ海軍士官レ

兵及避難中ノ男女在留邦人一〇〇餘名ニ向ヒ肉斷

ナリ 奥陣ヲ発射シ或ハ「アイヨネツド」ヲ擡シ甚シキニ

至リ予ハ足一痛矣ニテ臥床中ノ本官寢具寢巻中ヲ
剝取リタル後枕元ヨリ前收ニ回実彈組聲ヲ為シ
或ハ婦人連中ニ對シ幾回トナリ忍フヲハカサセ身
体検査ヲ行ヒ之ニ附隨シテあるノ無頼漢衆込ニ
當銀備品及銀貨ノ所有品及引揚在留民荷物
等ヲ徹底的ニ掠奪シテ以テ餘カス床板便器、
空瓶迄持去リタリ此騒動中ニ本村署長右腕
ニ貫通銃創ト左胸側ニ刺創ヲ根付少佐ハ左胸
部ニ刺創腰部ニ打撲傷ヲ受ケタル処兵士ノ暴力
ハ停止スル処ナク自動車庫ヨリ一ガソリンニテ持テ出

之当館ニ放火シ一同ヲ焼殺セシト放言スルニ至リタルヲ
以テ一同同時引揚ケ曳レノ男在留邦人三名アリテ支
那人ノ家ニ隠レ居リ何レモ安全ナリ一死十ハ諸君一決
心ヲ以テ十ハ時頃敵ヲ館裏庭ニ集合シ掠奪兵ノ
最凶ノ脅迫ヲ受ケ居ラタル矣先会々黨軍ヲ二軍
黨代表兼第二軍ヲ右師政治部主任ノ肩書ヲ有ス
ル揚ト云フモノ現場ニ去セ付ケ黨軍ノ方針ハ飽迄
外僑ヲ保護シ特ニ日本ニ対シテハ好意ヲ有スルニ拘ラズ無
智ナル軍隊力斯ル暴力ヲナレタムコトハ深ク遺憾トスル
処ナルカ今段ハ嚴重取締ヲ加フハク又不自由ノ事有

ハ本官ノ特ニ満足スル所ナルト同時ニ有ラズル迫害ノ下ニ
御眞影及極秘書類ヲ入金庫ノ鍵ヲ苦心路督シ
テ絶対安全ヲ保テ得タルヲ一実ニ天皇陛下ノ稜威
ニ依ルモノトシテ一同ノ恐懼感泣ニ堪ハサル所ナリ

尚日本人ノ学校枝城內蓬萊館栗林医院及松崎医院ハ

右ト同時ニ完全ニ掠奪ヲ受テ軍隊ノ本署トナリ其ノ他

全部目下掠奪中ナリ当館南隣金陵大學モ昨日掠

奪ヲ受テ希國人副院長外一名掠奪セラル天皇黨ハ

焼カレテ婦人数名死亡シタル趣ナルカ英國側ハ總領ヲ

力負傷セリト傳ヘラルル外被害程テ不明ナリ
(二十一日)

26

R.P. 59

自昭和二年三月
至同年九月
南京ニ於ケル支那兵
暴行及掠奪事件

36-197

南京（海軍省紙面）
本省 三月二十七日 改着

辭居外務大臣

森岡領了

（無号）

其、後引續本共党負ノ手引ニ依ル党軍一部ノ排外
暴行未夕熄マズ程潜ハ昨日蔣介石ハ本日到着ニ
テ掠奪兵ヲ免見次チ慘殺スルト同時ニ共產党
南京支部ヲ解散シ極力鎮壓ニ努メ居レルモ未
夕其ノ効無ク美米側共ニ下関ニ領了館假事務
所ヲ移シ金陵大學ニ避難中ノ米國人約百名モ愈
々本日午後ヨリ最後ノ引揚ヲ断行セリヲ以テ本官ハ

本二十五日午後四時御眞影ヲ驅逐艦格ニ移シ奉リ次ヲ
電信暗号以外ノ書類ヲ全部ヲ燒棄シ午後吉田司
令以下海軍士官兵員知名保護ノ下ニ在留官民一
同完全ニ驅逐艦ニ引揚ケ臨時當該事務所ヲ格ニ
脱出シタリ右引揚ケ際ニ、楊杰本官ヲ來訪シ總
指揮ヲ代表シ予今回ノ事件ニ對シ遺憾ノ意ヲ述ベ且
掠奪ハ在南支共産黨部員力惡ヲ煽動案内也
ルニヨルモノニシテ即時徹底的ニ取締ヲ為シ外交部
設置ト共ニ賠償ノ交渉ニ応スル旨ヲ述ベ經潜
昨日到着ト同時ニ特ニ私信ヲ本官ニ送り今回ノ事

件ニ對シテハ直ニ取締リノ手段ヲ講シツツアルニ付之リハ
實トシテ武力ヲ用ヒ事端ヲ滿カラセラルヲ無キ様希
望スル旨申出テタリ尙今回ノ對策ニ關シテハ初ヨリ
吉田司令及本官期セスレテ所見一ニシテ敵頭敵尾
無抵抗主義ニ決シ英米海軍側ハ昨日域内ニ向ヒ
大砲ヲ發射セルニ日本海軍ハ發砲セス英國總領事
館係獲英水兵ハ掠奪兵ニ向ヒ發砲用自動車ニ登
及護衛兵若干ヲ附シ英レタリ（廿五日）

上海
本省

三月廿八日
廿九日前着

幣原外務大臣

吉田總領事

外三六五号

任電外三五三号ニ関シ

二十七日夜黄郛ヨリ電話アリ蒋介石ハ黄ノ忠告ヲ

容レ二十八日不取敢被害關係國領事館ニ何代理交

渉負ヲ派シ南京事件ニ関シ遺憾ノ意ヲ表セシム

ルト共ニ事件ノ真相分明ヲ俟テ処罰賠償ノ責

任ヲ執ルハ申旨ヲ申テレシカニ事トナリ尚蔣ハ二

十八日午前十一時交渉署ニ殆テ本官ト会見スハ申旨

申越シタリ同二十七日夜交渉署五科長ヨリモ会見ノ日時
ニ関シ同様ノ申越アリタルニ付本官ハ二十八日午前十一時
交渉署ニ至リタル処將ノ命令徹底セサリシモノカ内
前ノ番兵ハ本官ノ自動車ヲ遮リタルニ付草野ヲ以テ
之等番兵ニ対シ約ニ依リ本官ヲ將總司令ヲ来訪
セル旨告ケシタルニ拘ラズ彼等ハ是非普通来訪
者ト同様内办ニ入リ面会人受付ノ手續ヲ為スルニ
テ聞入ルス其ノ態度亦面白カラサリシヲ以テ本官ハ
本来テテ將自身来訪陳謝スル事諦ニテモアリ強
テ彼ト会見ノ必要ナシト認メ直ニ引返シタリ然ルニ

本官帰館後交渉署員より電話より紹介石力本官ヲ
待テ受ケ居ル旨通知アリタルニ付前記ノ事情ヲ述ヘ右
行違ニ関シ陳謝スルニ非サレハ訪問セスト断リタルニ折
返し電話ニテ手落ケテ陳謝スルト共ニ交渉署員
ヲ門衛ニ立タシメ内達ヒテキ様取計ヒスヘキニ付是非
未訪アリタルトノコトナクシモ本日ノ其那紙ニ本官前
總司令ニ拜謁云云ノ記事アリ英米佛等ノ同僚ノ
思惑モ顧慮セラレ且御訓令ノ趣旨ハ黄郛ヲシテ徹
底セシトアルコトニテモアリ暫ク前ノ態度ヲ見ル方宜
シカルヘト存シ他ニ約束アリトテ断ハリ置ケリ

南京 海軍無線電
三月廿八日前着

幣 外務大臣

森岡領了

林 七 南京交渉 負ノ辭令ヲ受ケ本二十七日当

地着明日就任ノ筈ナリ尚内同人ハ本日 蔣介石ノ代表

トレテ本官ヲ来訪シ今四ノ事変ニ對スル遺憾ノ意ヲ

表シテ 藤機関兵ノ葬儀ニ参列セリ (二十七日)

電送ヲ二四二七号

昭和二年三月二十八日

在上海矢田總領事

幣原大臣

南京了件

才八九号

森岡ハ九ノ通り轉電アリ云々

本大臣宛南京宛電報ヲ二九号今回ノ事變ニ付テハ

貴官病臥中ノコトニモアリ殊ノ外苦心セラルベキト

察セラル居留民々何レモ無一物ト成ル迄掠奪暴

行ヲ受ケタルニ對シテハ同情ニ堪ヘズ鎮下彼亦前

例無キ被害ヲ蒙リタルハ甚ク遺憾トスル所ナル

支那兵ノ暴状ノ甚ニ申カリシニ比シ貴族海軍例及
居留民力終始陰忍自重ヲ一致協力ニ依リ二名ノ負傷
者ノ外居留民ニ一名ノ死傷者ヲ無ク全部ヲ安寧ニ送
ルベシト得タルハ同慶ニ存ス

南京事件ニ於ける各國死傷者数調	死者	負傷者	行方不明	計
日本 一、收藤海軍少機師長	二、駐在武官根下少佐、 三、領事官木村警察署長	二、總領事「ジャイルス」 外一名 Capt. & Spec. 二、領事館員及 一、婦人一名	二、印度人巡查	三
英國 二、「スミス」博士、水産	二、金陵大学「ウリアス」博士	二、金陵大学「ウリアス」博士	二、金陵大学「ウリアス」博士	六
米國 一、金陵大学「ウリアス」博士	一、金陵大学「ウリアス」博士	一、金陵大学「ウリアス」博士	一、金陵大学「ウリアス」博士	三
伊國 一、宣教師	一、宣教師	一、宣教師	一、宣教師	一
佛國 一、宣教師	一、宣教師	一、宣教師	一、宣教師	一
丁林 一、港務長	一、港務長	一、港務長	一、港務長	一
計 七	六	二	一五	一五

上海
本省

三月廿九日前着

歸原外務大臣

天田總領了

才三七〇号

森岡ヨリ左ノ通り

今回南京、掠奪事件、才二軍、才六軍及才四十軍

、魯、滕平、程潛、賀耀組、中ノ黨代表及共產派下

級將校ト南京共產黨支部員トカ豫人計畫等

備ノ上南京共產黨支部員、案ハ依リ特ニ外國領了

餉、教員及關係學校其他一般外國人ヲ目標ト

シテ行ヒタル組織的且排外的暴動ニシテ支那人ハ

殆ト被害ナシ將リ石以下各軍長各師長等カ本件
ヲ以テ越ル遺憾ナシ出来事トナシ十分取締ニ努力
シツ、アル誠意ハ諒トセサルニアラスアルモ何分赤化思
想以下級將校以下軍隊ノ大部分ニ滲蔓シ今日
迄ノハ殆ト手ノ著ケ得ラレサル程云ニ惡化セルモ
ト認ムルヲ公平ナル判断トスルカ如ク現ニ事件発
生及其翌日高級軍憲ハ本官ヲ来訪シテ陳謝
辭ヲ述、外國人ノ生命財産ニ對シ十分ノ保護ヲ
與フヘキ旨聲明シタルニ拘ラス南内外支那街ニ
於ケル日本人商店ハ着々其那兵ニ依リテ掠奪ヲ

受ケ加之昨二十七日 驅逐艦桃飛組一等機関長（今回
ノ事変ニ依リ死シ）ノ葬儀ヲ下関空母地ニ於テ営ミ
在泊軍艦特率及在泊民一同参列嚴肅ナル儀
式ヲ行ヒツツアル時ニ方リ横倉ヨリ二名ノ廣東兵力
会場内ニ乱入シテ秩序ヲ擾サントシ我水兵ハ腕
力ニ依リ突出サレタル中突アリ
彼此端々スルニ廣東兵ハ一般外國人ヲ排斥スルハ
勿論持ニ外國領ヲ蝕キ若ハ軍艦等ニ對シ故意ニ
侮辱ヲ加ヘントスルノ意ヲ有スルモノ如ク極端
ナル一例ヲ與ケレハ眼ニ一丁字ナキ兵卒カ我領事

蝕掠奪中ニ方リ露國ト支那トハ一家ナリ曰英西國ハ帝
國主義ナルヲ以テ排斥ス日本人ノ有スル財産ハ支那
人ヨリ捲上ケタルモ一ナレハ之ヲ取返スカ当然ナリ曰報
英人ハ上海ニ於テ數年來支那人ヲ虐待セリト揚言
シテ憚ラサルカ如キ明瞭ニ南軍内部ニ於ケル排外
過激的傾向ヲ察知シ得ハク此機ニ於テ或種ノ強
硬ナル制裁ヲ講グルニアラサレハ意外ナル結果ヲ招
来スルナキヲ深セズ特ニ河南、江蘇ハ殆ト完全ニ
南軍ノ手ニ落キトシ直隸、山東ニ於ケル北軍ノ潰
敗ハ向テ二ヶ月ヲ出テサルハク次ヲ奉天派内部ノ動

搖ニ依リ南軍ノ力満洲ニ及フヲ以テ白ヲ半々年以内ト
觀察スルル時ニ方リ南軍ノ暴行ヲ此儘看過スル
ニ於テハ近キ將來ニ於テ支那各地ニ於ケン在留民ハ
全部引揚ケノ外ナカルヲト同時ニ事満洲ニ迫ル
ニ至リテ対策ヲ講セントスルモ其機ヲ失スルニ至ル
トト愚考ス
御参考迄

上海
本省

三月廿九日午後
三月三十日前着

幣原外務大臣

矢田總領事

才三八五号

貴電才九一号ニ関シ

本林岡ヨリ木村亞細亞局長ニ在リ通

今回ノ事件ノ事前ニ計畫セラルルコトハ去ル二十五日

南京領事館一室ニ避難民ヲ收容シ居リタル如ク

六師才十七師長楊杰本官ヲ訪問シ来リ日本語ヲ

以テ多數在留民ノ前ニ於テ本件ハ南軍内部ノ不良

分子ト在南京共產黨支部員トカ通謀計畫シタル

尚題ハ本省

一報告ヲ下

セリ九前ニ

若表セル事

マアリ

モノニカカリ且右支部員ノ案ニ依リ特ニ外國人ヲ襲ヒ
タルモノナルコトヲ明言シ同時ニ同共産黨支部ハ既ニ解
散ヲ命ジタル旨ヲ述、擄奪後ノ餓死状況ヲモ詳細ニ
祖案ニテ歸リ又同日中四十軍憲兵隊長賀ト言フ
モ一同シク在留民集合ノ事室ニ来リ本官ニ對シ遺憾
ノ意ヲ表スルト共ニ今回ノ先鋒隊隊ハ魯滌平ノ中ニ
軍程潛ノ中六軍及賀耀祖ノ中四十軍ヨリ選抜編
成シタルモノナリト語リ予右所屬ノ正副、記号迄
詳細ニ説明シ同時ニ右三種兵士中何レカ多或少
何レカ少ナカリラン等ヲ本官以下在留民一同及居

合ハセタシ支那人使用人同寺ニ就中詳細ニ質問シタ
 ル事実は、右ノ如ク南軍ノ責任者力一般本邦在
 留民ノ面前ニ於テ公開セル談話を本官力録了トシテ
 新聞記者ニ公表スルモ何等差支ナシト認ケルノハナラ
 ズ右ノ今後ノ交渉ニ関シ當方主張ノ根拠ヲ有力ナラシ
 メル上ニ於テニ極テ必要ナル措置ト存ス南軍捕縛件
 本官力発表シタルコトニ関シテハ何等ノ行違ナク殊ニ
 旅行滞在中ノ大阪朝日記者團因ハ遭難者ノ談ヲ
 傍聴シ居タリト記憶スルト同時ニ本官力上海總領事
 館ニ於テ新聞記者ニ對シ右ノ談話を為シタル節ニハ矢田
 總領事已同席ニテ從來ノ疑問ヲ一掃セラレタル

上海
本有

三月三十日
三月十日
午後

幣外務大臣

矢田總領事

升三八七号

経電升三八六号二関シ

森岡ヨリ左ノ通

本三十日午前九時國民革命軍總司令 部參謀所長

葛敬恩ハ通次官劉友惠ヲ從ヘ菊地・山田兩人ノ案

内ニ依リ當總領事館ニ來リ本官ヲ病床ニ見舞

上海總領事館 草野書記長 木村署長 毛同席シ

タルカ葛ハ先シ支那語ヲ以テ今回ノ事件ニ對シ遺憾ノ

意ヲ表シ國民革命軍以外人ノ生命財産ヲ尊重保護
スルモノニシテ暴行者ガ軍人タルト將非軍人タルトヲ
問ハズ嚴重調査処分スヘキニ付今後ハ御安心アリ
日本領事ガ病床ニ於テ組撃セラル木村署長ハ重
傷ヲ受ケ其地ニモ負傷者アリタル點ニ對シ特ニ將
介石ヲ代表シテ見舞ハ辭ヲ述ブル爲訪問シタル旨
申出テ劉通訳之ヲ日本議ニ細訳シタル力ニ對シ
本官ハ病床ニ於テハ半身ヲ起シ嚴重肅ナリ態
不ヲ以テ聲ヲ勵ミ日本議ヲ以テ今回ノ事件ハ殊ニ
意外ニシテ國民革命軍ガ從來標榜スル如ク文野的

看板＝鈕、山東軍遣来、後、兗軍ノ入城ニ依リ留
 外人ノ完全ニ保護セラルルモノト考ヘ、其ノ歓迎ノ
 意ヲ表シ居リタルル、才二軍才六軍及才四〇軍
 ノ所士が突然青天白日旗ヲ翳シ正服正帽武裝ヲ
 着シ才一着ニ各國領事館次ヲ外國人教会学校個
 人商店、住宅等ヲ襲撃シ支那ニ居テ来タ嘗テ見
 サルル一殘忍酷薄ナル暴行擧奪ヲ行ヒ殆トト厄
 港事件ニ比較ス、ト慘状ヲ極メタルハ國際上極大ヲ
 重大ナル出来事ニレテ兗軍ノタメニ重大ニ取ラサルルナリ
 殆ト本件擧奪ハ全然支那人ヲ除外シ特ニ領事館ヲ

目標トシテ行ハレタニモ一ニシテ
 純然タル掛外無暴動
 ニシテ目下我朝野ニ於テ之加爲ト輿論沸騰シ現ニ
 帝國政府ニ放テ之カ善後策中講究中ナルコト際々
 官一地方領テトシテ此一點ニ関シハ何等言及ス
 自由ヲ有セズ唯々不取敢右ノ次ヲ將總司令ニ御傳
 達アリ云ハシ尙本日御來訪ニ関シテハ軍ニ本官一已ト
 シテ感謝ノ意ヲ表スル旨媛烈心ニ浴セカケタル如葛
 ハドナマギニ劉ハ色ヲ失ヒ虎毛角ニ本件善後措
 置ニ関シテハ自方等ノ何トモ明言シ難スル如ナルモ
 御座テ次ヲハ其後總司令ニ報告スル答ハコソコソト堂

外ニ引取リタリ今回ノ事件ニ関シテハ南京遭難者
 ハ勿論上海在留民間ノ輿論沸騰シ後予等官卜ニテ
 毛根當年嚴シク極メワタリ黒クノ必要ヲ認メ臂
 頭一杯喰ハセ置キタル事ナリ力同ノ引續キ我荒
 城司令官ヲ訪問シタル際モ右以上ニ猛烈ニ叱リ飛ハ
 サレタル趣ナリ

上海
本省

四月二日
收着

郵務外務大臣

天田總領了

第四二二号

森岡ヨリ

南京事件ノ真相ノ関ニ本官カ二十五日海軍無線

ニ依リ發電セル電文中「婦人連中ニ對シ幾回トナク

忍メ「ハカラサル身体検査ヲナシタルト」又句ヲ用ヒタ

ル為世間ニ強姦セラルタルモノアリ疑ヒ居ル由アリ

ハ此強姦ノ事實ナシ尤モ一ニ婦人ニシテ強姦豫行

爲トモ思ハルハ中所作ヲ受ケタルモノアリ、

上海
本省

四月二日
午前着

幣外務大臣

矢田總領了

第四二七号

森岡ヨリ左ノ通

上海
上院閣下宛電報 中三八七号之因之葛多謀署長

力本官ヲ見舞ヒタル際今回ノ掠奪暴行者乃南京ノ

兵士ナリヤ得又其他ノ者ナリヤ之因之充方調査スニ

云云トノ逃口上ノ逃タルニ付本官ヨリ本件力才二軍才

六軍才四十軍ノ兵士ニテ青天白日旗ヲ懸シ来リ

掠奪暴行タル事實ノ一般遺難者ノ目撃シ居ル所

之懸少且組織的計畫的排外行動ナルコトハ在南京最
高幹部之於テモ否定セラル所ニシテ何等疑ヒナシ
ト沿セ置キタルカ同日、葛力根本少佐ヲ訪問シタル
際、毛傍ニ在リタル井上大尉ヨリ今回、掠奪暴行
力明瞭ニ南軍告出、所為ナルコトハ各國被害者ノ
親シク目撃セル所ニシテ今更兎角、逃口ニ上テ述ブ
ルニ於テハ益々轉々石ノ信用ヲ失墜セシテ列國ノ態度
ヲ強硬ナラシムル外何等ノ利益重カルヘキヲ說キ得
ノ爲ニ計ルニ此ノ際進テ右ノ事實ヲ承認シ自覺的ニ
善後措置ヲ講スル方得第ナルヘント個人的ニ警告シ見

趣ノ処昨旦目下当地出張中ナル事務本部田代支那
課長（内密ニ出張シタルモノナリニ付御意ナリタシカレ
上大尉ノ件ニ將所ナラバ肉シタルニ將ハ南京事件カ
南軍ニヨリテ行ハレタシ事ハ並ニ之ト共毫毛トノ関
係ニ関シテハ毫毛否認スル所ナク日本領事及在留民
ニ対シ誠ニ氣ノ毒ノ至リナリト述ヘテ願フホテナ
件善後措置ニ関シテハ苦心ノ存スル所鮮カラサルヲ以テ
溜ク迄窮セラレサル様ニトハ口吻ヲ洩シタル由ナリ

聖送牙二七一二号

昭和二年四月四日 后一〇時

在上海 矢田總領事

幣原大臣

南京事件 報告提出方

第一七号

森岡、右へ通

南京事件、關於、当方並海軍省來電、綜合之不

取敢二十七日概要ヲ公表之モノタルヲ其後新聞報

遭難者誤等掲載セラル報道必ス一致セサル事

アリ精確ナル真相ヲ詳細公表スル必要アルニ就テハ

經リタル事件經過報告書至急提出セラルベシ

公信才二七二号

昭和二年四月五日

外務大臣男爵幣原喜重郎殿 在上海總領事 矢田七太郎

南京事件真相ニ関シ報告一件

貴電身一一七号ニ関シ森岡ヨリ左ノ通り

南京事件ノ真相ニ関シハ三月二十五日城内居民全

部ヲ取纏メ即真相ヲ奉シテ駆逐艦松ニ避難スルニ當

リ海軍無線ヲ以テ概要報告シ其後市官同二十八日

上海到着ト上矢田總領事ヲ介シ思付ノ諸矣屢次電

報済ミタル処今回一即申越ニ依リ別件ノ通り報告書

ヲ起草セルニ付海軍側トモ御協議一上適宜御取捨可然
御公表相成交シ

尚中官カ域内引揚ニ際シ海軍無線ニテ發送セル前

記真相概要ニ開スル電報ハ本省ニ於テ廿六日公表

セラルタル顛末ト対照スルニ両省多大ノ懸隔アリテ

当地拙電ハ未着ノ疑アルニ付為急別添一抄郵報

ス

南京事件 蘇州之圍スル 報告 (森岡領下 報告)

南北兩軍交戦之圍シ三月二十一日午後五時頃南京南

内外邦里約一〇里ノ附近ニ秣陵園中附近ニ熾シ之銃

声起リ直魯軍潰敗ノ形勢アリ其後引継中斷

ナク大砲、機關銃、小銃ノ響音天地ヲ震撼シ党軍ノ

入城ニ動目ヲ起ササルヘシト現タケルヲ以テ二十二日

午後七時頃不取敢在留婦女子全部ヲ當館ニ避難

セシメタルカ二十三日午後五時頃ニ到リ直魯軍ノ敗

兵南内ヨリ城外ニ雪崩レ込ニ當館前内外ヲ横断

切リ下南方面ニ向テ退却ヲ開始セシニ依リ直々ニ在

留民男子ニ付シテ已当館引揚ヲ命シ個人的引揚ヲ
恐怖スル者ニ付シテハ特ニ警察官ヲ派シテ出向ヲ
為サシメ自宅ニ在ルヲ却テ安全ト爲ス者並混雜ニテ
引揚不可能トスルモノ七名ニ付シテハ電話ヲ以テ
各自最モ安全ト認ムル護身的方法ヲ採ル様訓達ヲ
了シ其他ハ全部午後八時頃当館ニ避難ヲ了スルト
共ニ下関ニ在留民ニ付シテハ豫メ打合セニ基キ二十
日午後五時頃婦女子全部ヲ三星洋行ニ避難セシ
メ更ニ二十三日午後五時頃下関在留民全部ヲ日清
丸ルニ引揚ケシト軍艦ヨリ指揮官一名及水兵十

七名ヲ派シテ保護シ居タル由ヲ下関一帯ニ解テ
敗走直島軍ニ依テ掠奪開始セラレタルヲ以テ婦
女子全部ヲハルクヨリ駆逐艦松ニ移シテ城内在電
民ノ保護及領テ餉警備ノ方法トシテ二十二日夜
橋番組・荒木海軍大尉引率ノ下ニ兵員九名並通信
兵一名ヲ當餉ニ派遣シ翌二十三日夜ニテリ當餉ニ前カ
ヲ鎖シニ由ニ土囊ヲ積ミ機関銃ヲ備付テ兵員ハ
小銃ヲ以テ持テ武装シテ交代警戒セシ居リタルカ元來
南京ハ各國共居留民大多數城内ニ居住シ殊ニ日本商
人ハ支那街ニ散在セル者多キヲ以テ從來各國共事

要動能、際居留民保護上起ル困難ヲ感シ特ニ下
関ト域内トノ間ニハ堅固ナル城壁ヲ有スル爲メ其那兵ノ
戒嚴ヲ突破シ公然武装陸戰隊ヲ上陸セシムルハ強シ
ト不可ク能ク、事情アリテ先年当地領ヲ圍ミ、
支那当局ニ対シ有テ、際外國居留民保護ノ爲陸
戰隊上陸ニ関シ默認ヲ与ヘラレタキ旨由交渉ヲ
試ミタム事アルモ一言ノ下ニ跳スヤケラレ其結果
近年ハ各國側共形勢危急ノ兆ヲ認ムル場合ニ成
リ、早目ニ武装セサルハ水兵ヲ各國領事館ニ
上陸セシムル現ニ各國領事館ニ備付ケ、已ノヲ使用

セシムルトトシ更ニ領ヲ領、安全カヲ智ルカサルル虞ヲ
ルニ到ラハ各國領ヲ領軍艦側面ニ適当ノ方法ヲ以テ
通信機淺ノ上列國共同ノ陸戰隊ヲ組織シ城内ヲ
破壊シ干城内ニ侵入シ金甌金陵大學、日本領ヲ領
英國領ヲ領、途順ニテ各國居留民ヲ全部城外ニ
撤退セシムルノ内約成立シ今回ニ豫テヨリ其趣旨
ニ依リ各國ノ文武官憲協隊ノ結果亦一着ニ日英
在留民ハ日英領ヲ領ニ米國在留民ハ金陵大學ニ
避難セシト其後ノ事ハ臨機应变ノ措置ヲ為スコトハ
ナリ居リタル処意外ニモ各國領ヲ領共亦一着ニ暴

作探奪ヲ蒙リ電話ハ壊サレ（当館ヨリ早クヨリ内密ニ
海軍無線ヲ取り寄セ居リタルモ探奪セラレタリ）各國
領ヲ蝕相互ハ勿論海軍ト！通信連絡モ不可能ニ陥リ
遂ニ今回、如キ一大慘劇ヲ演出スルニ至リタル也
第十ノ條ヲ事件當時！真に詳述スルニ至リ四月
午前五時半頃青天白日旗ヲ翳シタル南軍百規軍
續々入城シ領ヲ蝕前鼓樓附近ヲ經テ下関ニ向
ヒタルカ本官ハ一病床（約一ヶ月前ヨリ左足、動脈硬化
症即脱疽ヲ病ミ歩行不可能ニ至妻及看護婦
！看護ヲ受ケ居リタリ）ニ在リテ此報ヲ接シ探奪ハ

ク、場合敗兵ニ依リテ行ハルモノナレバ、直屬軍力
歟退セム以上十中八九危險ニ在リタト認メテト同
時ニ少數ナル水兵ヲ以テ幾千ノ兵那兵ニ武力對抗ヲ
為ス。然レ總對不可能ニシテ、一屬シ結局如何ナル事
件起ルモ無抵抗主義ヲ取ルノ外イキ、以テ寧ロ
党軍及民衆ノ敵愾心ヲ挑発セリルカ爲早キニ及ニテ
大裏及機關銃ハ撤去スル方有利ナリト考メ、右撤
去方荒木大尉ニ要求シタルニ大尉モ同意ニテ言下ニ
之ヲ撤去シ、同時ニ西内内屏ヲ閉キタリ然ルニ七時
頃ニ至リ約三十名ノ党軍兵士當館ヲ訪レ山東軍ハ

逃々江に居ラカヤト尋ネタルに付其場ニ居居セタル
曰キ今日リ居ラト答ヘタルに從順ニテ引取リタルカ内モ
ナク約五〇名ノ党軍正規兵カ正服正帽ニハ銃ヲ携ヘ
疾風ノ如ク當頭ニ事務所ニ押寄せ一避難民ハ大多數ヲ
事務所ニ階及館カ負官舎ニテ少數ヲ官邸ニ收容シ
居リタリ事務所館員官舎等各室ニ圍入シタルヲ
以テ當時中官ノ傍ニアリタル木村署長ハ事態重大ト
認メ直ニ事務所ニ駆ケ付ケ此処ハ日本館ヲ館ナリト
説明シテ兵士ノ暴行ヲ阻止セシメタル処早速捕
ラレテ身体検査ヲ行ハレ所持品全部ヲ奪ハレタル上

後横側ヨリ銃ヲ狙撃セラレテ前腕部貫通傷ヲ蒙リ
 其後本官病室ニ驅ケ戻リ又事務所ニ在リタル根本少佐
 並和田部長ハ風影ノ臺々々所ヨリ暴兵ニ見込まレテ
 金庫ノ鍵ヲ出セト強ヒラレ鍵ハ持タヌト答ハタルニ何
 レモ銃台ニテ腰部ヲ殴打セラレ此亦前後、本官病
 室ニ驅ケ来レリ此処ニ當リ兵士ノ一隊ハ事務所ヨリ
 官邸食堂ニ向テ実弾ヲ霑射シ咄々留テ合圖ニ官
 邸ヲ襲ヒテ一着ニ二階ノ本官病室ニ飛ヒ込ニ便服
 身ノ案内ニヨリ掃蕩ヲ始メ爾来目力郵車、馬車、分
 車等運搬具ヲ用意シテ種々構内ニ侵入シ来レル多

我、暴兵（百五十名乃至二百名）見込（ト合シ）官
 邸事務所、館員官舎、使用人室、物置等限下ク
 横行之堂々青天白日旗（巻キ居タル為ト文字ヲ見ル
 一得サリシ）ヲ掲ヘ口々ニ日英帝國至義打破、華俄
 一家、日本ノ財産ハ支那人ヨリ巻上ケタルモノナレハ
 奪回ス、シ日英兩國の紛争表上海ニ於テ支那人ヲ
 虐待シタリ等ノ標語ヲ叫ヒ衆砲脅迫掠奪兇暴ノ
 限リテ尽シ避難者ハ虎狼ニ襲ハレタル群羊ノ如ク
 四方八方ニ追ヒ廻サレ婦人ハ幾回トナク忍テハカラサル
 身体検査ヲ受ケ叫喚悲鳴團クニ忍ヒス女官ハ大

病ニテ且是ノ自由ヲ失ヘル為難ヲ避クルヲ能ハサルト本
官ヲ以テ領子ト認メラレタル為テ執固ク銃先ニテ脅
迫セラレ最後ニハ綿巻祖具迄ハ取ラレタルモ妻カ終始
傍ニ在リテ身ヲ以テ庇ヒ呉レタル為メ幸フニシテ安全ヲ
得ニ時局ノ久シキニ直リ絶向ナク生命ノ迫害ヲ受ケ居リ
タル折柄偶々一人ノ兵士ニヨリ枕下ヨリ実弾ニ発テ祖
撃セラレタルノ幸ニ本官ト妻ト間ヲ抜ケ命中ヲ免レ
タリ當時本官ノ病室ニ避難シ居リタル數名ノ在留
民ハ本官ハ已ニ殺害セラレタルモノト誤認シ室外ニ飛
ヒ出ニタルモ負傷セル者長ハ職責上飽ク迄本官ト運

命ヲ共ニセシトシ根中少佐ハ軍人トシテ一責任ヲ觀念ヨリ
 中官カ殺害セラルタル状況ヲ最後迄一人モ見届ケタル者
 ナレト在リテハ目撃者一ノ面目ニ関スルモノト考ヘ右兩名ハ中
 官事ト共ニ飽迄病室ニ居残リタル処形勢愈々危急ニ
 テ中官カ此上室内ニ止マレルニ於テハ木村、根中、佐妻、三人
 ヲモ結局犠牲ニ供スルニ到ルハキヲ恐レ不自由ノ身ヲ起
 シツ、一外ニ出ヤウト叫ヒ窓ヲ押明ケテラニダニ轉ヒ出
 シタルカ其間髪ヲ出テスレテ暴兵一名入り来リ木村、根中
 ヲ銃劍ニテ刺シタル爲メ兩人共ヅラニダニ飛ヒ出ル木村
 ハ巧ニ階下ニ逃シタルモ根中ハ階段口ニテ左右ヨリ暴兵ニ

銃ヲ擬セラレタル爲高サ三尺餘、柵干ヲ飛越工階下ニ
落タタル如キ幸ヒ下ニ貯水タンク（彈力性、カバールアリ）アリ
ヲ一命ヲ取り止メタリ。
之ヨリ先キ荒木大尉外兵員十名の軍装ナル爲暴兵、敵
慨心ヲ挑発シ反ツテ在留民ニ迷惑ヲ及ボス、キヲ忍ビ
官邸北側「ボート」室ニ避難シ居リタルカ在留民一同ハ
飽ク迄陸戦隊ノ無抵抗主義ヲ懇請シ且正服正帽
ノ終在留民ト一緒ニ居ルコトハ一同ノ生命安全ノ爲甚タ
好マシカラサルヲ以テ孰ノ毒台ヲ各兵階級章及帽
子ノ如キ標識ヲ一時取り去ラシメ宗旨本官ニ懇望シ来レ

ルヲ以テ本官ハ已ニ絶対無抵抗主義ニ決シ加之在留
民ノ生命カ風前ノ燈火ニモ比スルキ時ニ當リ右ハ不得
已ニ要求ナリトナシ荒木大尉ニ協談シタル処大尉モ一
同ノ要求ヲ諒トシ在留民安全ノ爲ニ忍テハカラサルヲ
君ヒテ其情ヲ容レタルハ本官及在留民一同ノ感謝ニ
不堪ハサル処ニシテ當時大尉ハ已ニ軍人トシテノ立場ヨリ
心中自殺ヲ決シ居タルモト察セラレ而モ兵士ノ暴
行ハ停止スル処ヲ知ラス其内ある名ノ無賴漢モ押寄
セテ掠奪品ノコボレヲ拾ヒ一物剩サス取リ盡シタル後或
兵ハ自動車庫ヨリ一カソリニテ持出シ当館ニ放火ス

ト揚言シタルヨリ一同ハ十一時頃官邸裏庭ニ集合シ
 一刻モ速ニ何トカ方法ヲ講シ外務部ノ救助ヲ求ム
 協隊中ナリシカ本官夫妻ハ即眞影擁護ノ責任上飽
 迄官邸ヲ下ラサル決心ヲ以テ最後迄樓上ニ止リ居リタ
 ルモ板坂民会会長再三本官ノ降ニ求リ即眞影ノ安全
 ニ関シ予ハ別ニ方法ヲ講スルコトトスヤハク差支リ事急
 ナルヲ以テ右取敢裏庭ニ来ルヤク懇請ノ次ヲアリタルヲ
 以テ本官モ遂ニ其勸ニ従ヒ階下ニ下リ予早速早崎一
 書ヲ金ヨリ即眞影及電信符号ヲ収メタル金庫ノ鍵
 ヲ取リ上テ自ラ炊事場ノ煙突破損ノ個所ヲ見付ケ

予其中之匿之同之向也事此起之至リタル以上勉メ予
 冷靜ノ態交ヲ持シ一致共力以テ海軍側トノ連絡ヲ
 圖ル外ナク單独行動ハ甚タ危險ナルヲ以テ全部一
 ヶ所ニ集合スハ予旨ヲ告ケ幾回トナク同方御眞影奉
 安及電信符号ヲ收メタル金庫及公金約三千兩ヲ
 藏シタル金庫一鍵ヲ出セト暴兵品收メ脅迫ヲ受ケ
 居リタル先(矢)官金入金庫一鍵ハ須藤書記長方始メ金
 庫ニ差込シ同時ニ安全符号ヲ狂ハセ置キタルヲ掠奪
 ヲ免レタリ) 偶々第二軍黨代表兼第二軍中隊師政治
 部主任齋某(初メ本官ニ名刺ヲ渡シタルニ後ニ至リ師

團長ノ注意ニ依リ口喧雜ヲ避ケシカ爲本官ヨリ之ヲ
取リ上ケタリ現場ニ駐付テ黨軍ノ方針ハ外橋ヲ保
護スルニ在ル処先發軍隊中ノ不良份子カ斯ノ如キ
暴行ヲ爲シタルハ殊ニ申訳ナク特ニ同又同種ノ日本
事體ニ對シ斯ノ如キ不祥事ヲ惹起シタルハ遺憾ノ
至リニ不堪暴兵ノ才ニ軍及才ニ軍ノ所屬ナルカ即時
嚴重取締ヲ爲スヘキニ付安心アリ交ト述ヘ同時ニ
護衛兵四名ヲ連レ來リ肉毛ナク更ニ才ニ軍才ニ師
長戴某ニ現場ニ來リ遺憾ノ意ヲ表レシ、兩人連名
ヲ以テ外橋住所不湛入收如有侵犯立予槍決師

長印當代表印、告示板ヲ鉛筆ニシテ當館用
紙ニ書キ付ケ本館ニ交付シタルヲ以テ本館ハ鉛筆ヲ
之ヲ前例、五円ニ貼リ付ケ簿録ハ謄撮中留トシテ
早崎書記生ニ保管ヲ托シタリ

右ノ結果大體平穩ニ帰シタルモ附近ノ金陵大學ハ着
々掠奪ヲ受ケ城内邦人店鋪ニ掠奪最中ナリシ爲
一同尚不安ノ念ヲ免セス憂色ヲ堪ハツテ使用人ノ好
意ニ依リ支那饅頭及茶ヲ取リ寄セ饑渴ヲ解シ醫治シ
居リタル折板午後四時ト思ハル頃下関ヨリ城内ニ向ケ
五分間墨位ニ砲声ヲ聞キタルカ水兵、一人ハ右ノ美國軍艦ヨリ

本林岡

以予が官に信用を、中支那人三名、特使として下関に

遣はる。同日司令官の希望として日本側は砲撃に

参加する。この絶対的信を、与へるに何力、行違ひより

第一参加する力如中、このア、城内に留民、生命盡く

之力犠牲に供せらる、中、以て斯る武力的直接行

動に依るコトナク、飽迄蕪湖に在る、將介石、この在南

京、党軍幹部、動乱鎮定方訓電せられ様取計

いし、交旨傳言、シタルに治に至り、右使者ハ我軍艦、其

意を傳へサリ、事判明せり

恐怖、餓渴、中、一夜、明、二十五日、朝、来レリ知ラズ

如何ナル方法ニヨリテ危険ヲ軍艦ニ通シ九死ニ一生ヲ
求メントスルカ 同艦首協隊スルモ妙案ヲ得ズ當惑
シツツアリタル矣先年前十時頃ト思ハル頃才二十四駆
逐隊司令吉田海軍中佐ハ杉浦大尉以下士卒及
通訳知名ヲ從ヘ決死隊ヲ組織シテ各艦ニ乘リ込ミ一
回無サタルヲ見テ感極メテ固ク本官ノ手ヲ握リ
双眼熱涙ヲ流シテ一同無サカト絶叫シ避難者一同
狂喜感激シテ天地使ヲ迎フルカ如ク期セラルテ天皇
陛下萬歳ヲ三唱シ奉リ其時司令ハ東館途中使
者ヨリ受取リタル経潜電本官宛書面ヲ讀ミ文面ニ

一治安ノ維持ニ関シテは目下危急ノ際ヲ識シツテ
 レハ日本海軍ニ於テハ砲撃スルコトヲ希
 望ストノ意味ヲ認メアリタルカ當時尚域内居民側
 掠奪ハ依然繼續セシ居リタルヲ以テ石取敢吉田
 司令ニ誠賀書記生ヲ附シ午前十時頃自郵車
 ニテ当館出立程潜ヲ訪問セシメテ官ハ病氣ニ
 干親シク訪問スル一能ハサル旨ヲ告ケ且少速ニ邦人
 ノ保護ニ関シ最善ノ努力ヲ盡サレテ旨告ケシメタ
 ルカ午後二時頃吉田司令及誠賀ハ中六軍中十
 七師長揚杰ヲ伴ヒ来リ揚ハ避難民一同ノ面前ニ

於日本語ヲ以テ本官ニ對シ今圓一出來事ハ誠ニ
遺憾トスル所ニシテ右ハ決シテ黨軍幹部ノ意見ニ
以テ一部ノ軍隊内部ノ不良分子ト南京共産
支部員力通謀トシテ仕組タル仕事ナリハ舊々御冤怒
願交々黨支部ハ已ニ解散ヲ命シ尚善後措置ニ關
シテハ誠意ヲ以テ交渉スルハキコトトシテハキコト付
例トシテハ飽ク迄寛大ノ態度ヲ以テ本件ヲ処理セ
シタルト申出テ同時ニ當該員ノ案内ニ依リ被害實
況ヲ限ク視察シタルト同時ニ本官ノ清ヲ容レ御眞
影奉安並ニ電信暗号ヲ收メタル金庫及官金ヲ

収メタル金庫ヲ我カ年ニ依リテ破壊シ内容ヲ持
 出スコトヲ承認シ一之ヨリ先護衛兵共武力ヲ以テ
 我カ兵カ右金庫ヲ破壊スルヲ防害シ居リタリ且
 餉ヲ餓並在留民引揚用トシテ司令部用自給
 車三台ヲ提供シ且ハ護衛兵一小隊ヲ派遣シテ
 タリ之ヨリ先陣四十軍ノ憲兵隊長賀某百平頃
 本官ヲ来訪シ遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ今回ハ先鋒
 隊ハ魯滌平ノ中ニ軍程潜ノ中六軍及賀耀祖ノ中
 四十軍ヨリ選抜編成シタルモノニシテ中ニ軍一兵士ハ
 紅藍色合ノ「リボ」ヲ腕ニ纏ヒテ中六軍ノ兵士ハ同「リボ」

又三ネクタル結トナシテ四軍ノ兵士ノ頸ニ巻キ付ケ
 居ルモノナルカ日本領ヲ蝕ニ襲来シタル兵士ノ中何レカ
 多ク其向ヒカ少ナカリシヤヲ本官並ニ避難民一同及
 居合セタル使用支那人ニ尋ネ結局本官ヨリ一回ノ記
 憶ヲ綜合シテ第一軍及第二軍ノ兵士カ大多数ニシテ
 才四十軍ノ兵士ノ極少少數ナリト旨ヲ告ケ同時ニ本
 官ノ妻カ本官病室ニ於テ捕拾ヒ擧ケ保存シ居
 リタル暴兵遺失ノ帽子一個一中ニ姓名ヲ記シ又
 別ニ他ノ兵士ノ名刺一枚ト孫文ノ写真及ヒ遺訓ト
 ヲ印刷セル紙片ヲ差込挾ミアリタリ目下浅賀書記

生保存スヲ示シタル詳細年帳之書付テ引取り
リ午在四時頃ニ到リ自動車一台ヲ用意シ杉浦海
軍大尉和田巡査部長及水兵一名之御真影一機密
書類ヲ毛舎山ヲ托レ四時五十分無テ軍艦松ノ奉
安シ次ヲ五時頃国旗ヲ卸シ公信類ヲ焼キ捨テ農
兵力内外ニ打捨テ翌々タル自動車ヲ取返シテ車
庫ニ收メ官邸迄接内ニ半壊トナリ居タルヒナリ
ヲ已残シテ後ノ取締ヲ其即軍警ニ委託シ同馬車或
ハ自動車ニテ領テ歸リ引場ヶ一此所金陵大子ニ
集合シアリタル米人百数十名已赤十字会及紅十字会

一、援助ニヨリ軍艦ニ引揚ケテ開始セルヲ見タリ。二、里ノ道
 程ヲ無テ通過シテ軍艦ニ向ヘテ下関在留民一同ノ之ヲ
 先ニ已ニ軍艦ニ避難シ、船内ニ於テ在留民中ニ十三日
 晩飯ヲ餉ニ避難シ、モノモ二十四日ヨリ二十五日午前
 ニ至リ全部餉ヲ餉ニ集リ一同減シテク安全ニ撤退シ
 タルカ午後六時四十分迄ニ駆逐艦松、桃、濱風ニ收容
 セラレタリ南京避難民總數ハ百三十一名ニシテ旅行者ヲ
 含スレハ百三十五名トナリ書記生、巡查計六名ヲ除ク以外
 ハ本官引奉ノ下ニ翌々二十七日午前一時軍艦天龍ニテ南
 京港二十八日午後四時上海ニ着シ、餉ヲ餉負ノ一部及餉

負家族全部ハ上海總領事館ニ在留民ハ東西兩方
願寺ニ收容セラル

下関方面ノ状態並ニ後藤機關兵流彈ニ于斃ル者

願末ニ関シテハ事主トシテ海軍ニ関シ且正確ナル

報告ハ既ニ海軍省ニ到着セルコトト思ハルニ付委

細ハ同省ニ就テ御義知ラ上公表ハ御必要ニ依リテハ

可然御追加ヲ乞フ

尚外國人側ノ被害ハ既經英米艦長報告ニ依ル

通テルカ英國總領事館ハ如官等引揚途中瞥見

タル処ニ依リテ支那軍隊ハ此所トナリ居リ又最近南

京ニ立寄りテ来渡セル日本人旅行者ノ誤ニ依リテ
米國領事館モ兵舎トナリ日本領事館ハ市内ノ他
軍警ニ依リ監視保護セラレ居ンモ日本人ハ学校及ヒ
須藤医院ハ軍隊ノ在所ニ立テラレ居ルトノ事ナリ
今回ノ掠奪暴動ハ外國人ノミテ目標トシテ行ハレタ
モソレニテ支那ノ側ニ被害ナシ